

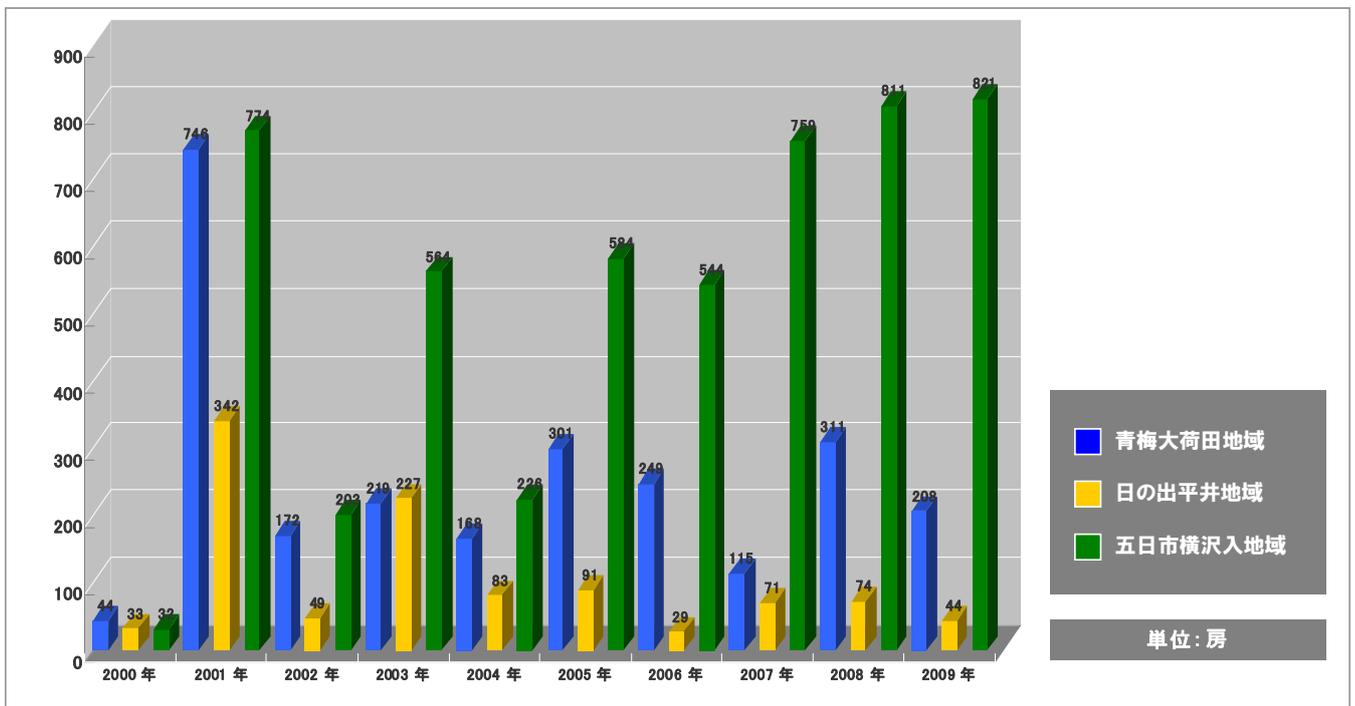
添付資料

1. 横沢入に生息する両生類とレッドデータブックカテゴリー

種名	科名	学名	ランク					備考
			区	北	南	西	国	
トウキョウサンショウウオ	サンショウウオ科	<i>Hynobius nebulosus tokyoensis</i>		B	B	B	VU	
イモリ	イモリ科	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	B	B	B	B	NT	
アズマヒキガエル	ヒキガエル科	<i>Bufo japonicus formosus</i>	C	—	—	—	—	
ニホンアカガエル	アカガエル科	<i>Rana japonica japonica</i>	B	C	C	—	—	
ヤマアカガエル	アカガエル科	<i>Rana ornativentris</i>		C	C	—	—	
トウキョウダルマガエル	アカガエル科	<i>Rana porosa</i>	B	C	C	C	NT	
ツチガエル	アカガエル科	<i>Rana rugosa</i>	B		C	—	—	
シュレーゲルアオガエル	アオガエル科	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	B	C	C	—	—	
モリアオガエル	アオガエル科	<i>Rhacophorus arboreus</i>		C	C	C	—	
カジカガエル	アオガエル科	<i>Buergeria buergeri</i>			B	C	—	

調査・資料提供: 西多摩自然フォーラム

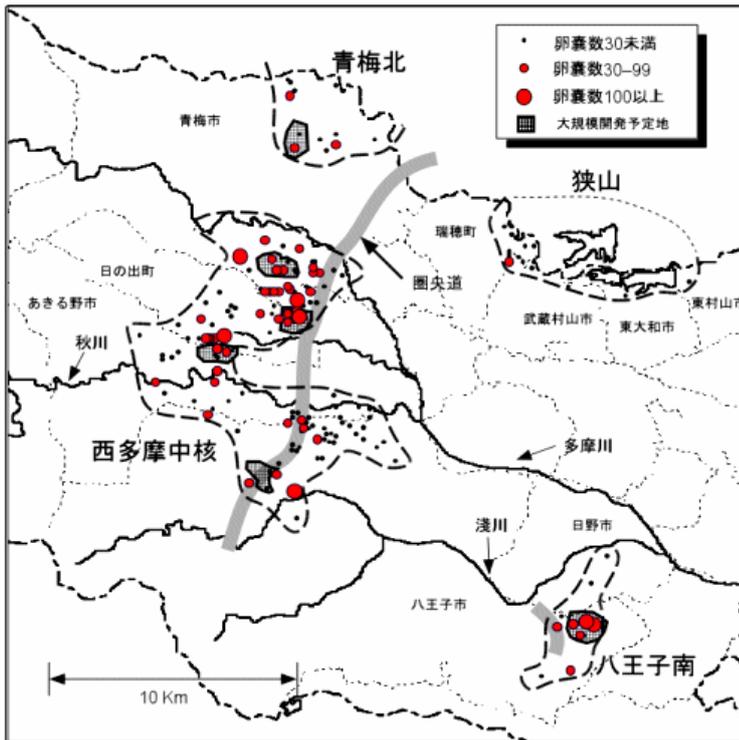
2. トウキョウサンショウウオの卵囊数の推移



調査・資料提供: トウキョウサンショウウオ研究会・西多摩自然フォーラム

横沢入においては、2006年1月に東京都里山保全地域に指定され、休耕田の浚渫等による繁殖環境の再生・創出が行われ産卵数が増加傾向になりましたが、アライグマによる食害を放置すると2010年以降は激減する可能性が高い。

3. 東京多摩地区におけるトウキョウサンショウウオの産卵場の分布

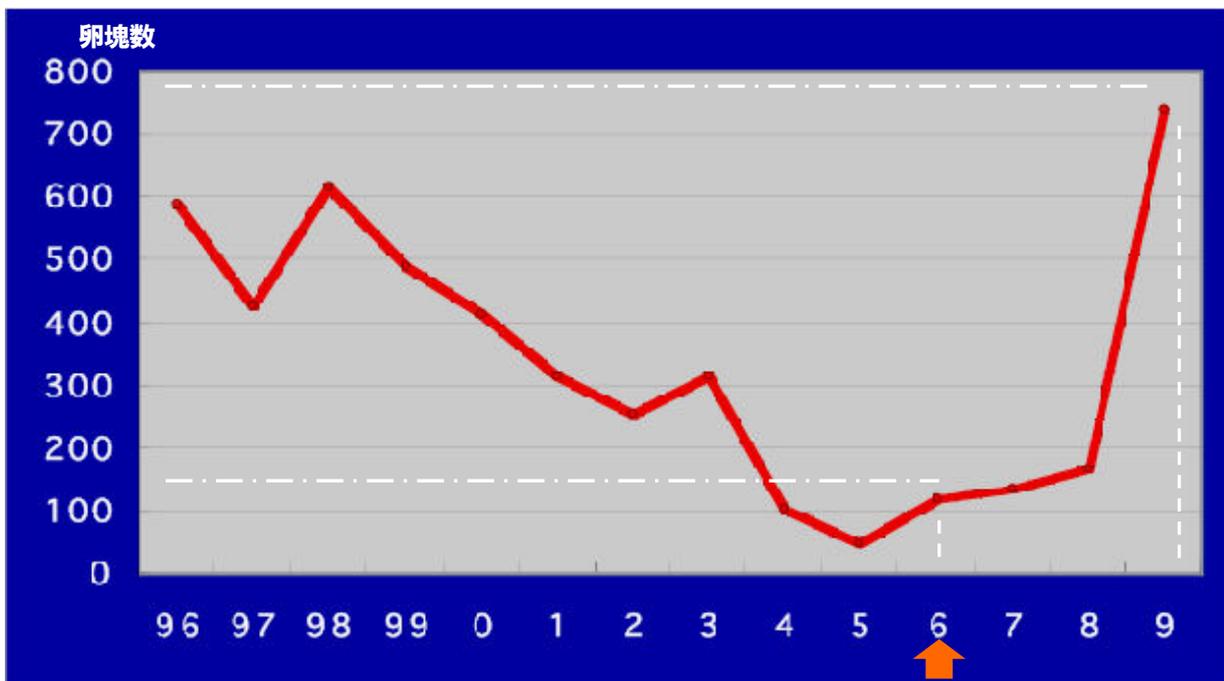


調査・資料提供:トウキョウサンショウウオ研究会

本図は 1999 年のデータを基に作成している。

1999 年当時、日の出平井～あきる野菅生にかけては良好な生息域となっていたが、2008 年に実施した調査では激減しており、ますます横沢入周辺の重要性が高まっている。

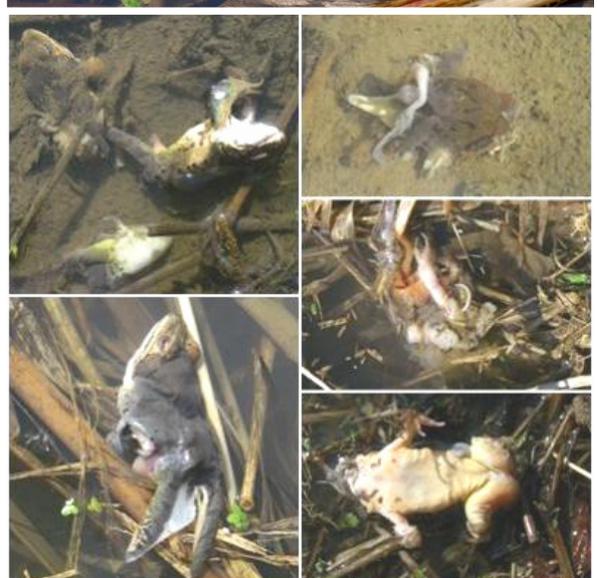
4. 葉山町鬼ヶ作谷戸におけるヤマアカガエルの産卵数(卵塊数)の推移



調査・資料提供:三浦半島自然誌研究会

2006 年に谷戸の周囲 1km 内で徹底的にアライグマを駆除し、その後も、その範囲内では捕獲を継続した結果、2009 年にヤマアカガエルの産卵数(卵塊数)が激増し対策効果の高さを示した。

5. アライグマによる食害の状況写真



食害を受けたヤマアカガエル

撮影地:横沢入

撮影日:2010年2月14日・21日



アライグマ（成獣）

撮影地:横沢入

撮影日:2010年2月19日



アライグマ（足跡）

撮影地:横沢入

撮影日:2010年2月14日・21日



撮影地:大荷田川流域



撮影日:2005年4月2日



撮影地:大荷田川流域
撮影日:2008年3月29日



撮影地:大荷田川流域
撮影日:2008年4月2日

食害を受けたトウキョウサンショウウオ